



海辺で見つけた 神秘的な大地の素顔

岩脈や鉱物、化石など地質学的に貴重な景観が楽しめる名所を「ジオサイト」と呼びます。ジオサイトを含め自然に親しむ公園「ジオパーク」構想には、世界的にも関心が集まっているところ。今日は県内のジオサイトを訪ねて、東の海辺へ。



女郎島



引田不整合

県

内にもジオサイトは数多く存在しますが、中でも東かがわ市は、海沿いのジオサイトの宝庫。「ジオサイトめぐり」を企画するなどPRにも力を入れており、人気を博しています。



萩野憲司さん

「海からの視点で見ると、ジオパークとして、まちおこしのきっかけにした」と、同市教育委員会生涯学習課の萩野憲司さん。

高松市内から国道11号を東進、東かがわ市に入った辺りから山田海岸の方へ行ってみましょう（右上写真）。きれいに整備された浜辺に立つと、左手に絹島、右手に丸亀島と女島の島影がぼっかりと浮かびます。



エリア 東かがわ



ランプロファイヤー

の天然記念物に指定されています。さらに東へ進み、白鳥の松原を越えて鹿浦越へ。白と黒の地層がダイナミックなストライプを描く「ランプロファイヤー岩脈」が間近に見られるスポットです。ランプロファイヤー（煌斑岩）へ向かう遊歩道沿いにも、花こう岩に黒雲母デイサイトが貫入した「デイサイト岩脈」が。ただし、道は海ぎわで風が強く、満潮時は一部水没するため、風の穏やかな日の干潮時を狙いましょう。

舗装が途切れ、最後は岩を飛び歩かように進んでいくと、やがて右手にま模様の壁がそびえ立ちます。大小合わせて20以上、厚さも2センチから2メートルまでさまざま。白いのが花こう岩、黒いのがランプロファイヤーで、花こう岩にランプロファイヤーが貫入してこの

ような景観が生まれました。大正4年に学術的価値が評価され、世界的にも珍しい景観として昭和17年に国指定天然記念物に。

与治山を越えて引田の海岸線を行くと、田の浦海岸の先に浮かぶ女郎島が見えてきました。花こう岩の「陸繋島」で、大潮の干潮時には海岸と陸続きになります。城山の引田灯台下に見られる「引田不整合」も、日本で最初に発見された中生代の不整合（地層の不調和）という貴重なジオサイトです。悠久の時の流れを刻むジオサイト。日常風景にとけ込む、大地の素顔に触れた一日でした。

海の魅力を 東から発信したい

ソルトレイクひけた 所長 六車庄一さん

東かがわはハマチ養殖発祥の地、中でも安戸池はそのシンボリックな場所。湾が砂州で外海から隔てられた「瀉湖」で、ここもジオサイトの一つです。



六車さんは「現在も2つの水門から海水を引き入れていますよ。体験学習館マーレリッコを中心に、餌やり体験や釣りを楽しむことができる海辺のスポットとして多くの方が訪れます。県魚のハマチや地域ブランド・ひけた鯛の歴史、旬、魅力を知り、より楽しんでほしいですね。東の情報発信拠点として、さらに充実を目指したい」と語ってくれました。



六車さん

問 マーレリッコ ☎0879-33-2929